2516 大腿動脈内 ^{201}Tl 注入シンチグラフイによる下肢の骨と軟部組織病巣の診断

利波紀久，道岸隆敏，小泉 潔，桑島 章，中嶋憲一，久田欣一（金大・核）富田勝郎，野村 進（金大・整外）

骨と軟部組織腫瘍は ^{201}Tl chloride を静注することによつてしばしば描画されるが，しかし病巣内の放射能量は診断するのに不充分であることが多い。そこで ^{201}Tl を大腿動脈に直接注入することによつて放射能量を増し下肢の骨と軟部組織病巣の診断を試みた。対象は悪性腫瘍７例，良性腫瘍１０例，炎症性疾患６例の２３例である。悪性腫瘍は全例著明な陽性像を示した。良性腫瘍で類骨骨腫，巨細胞腫，血管腫のような細胞性腫瘍は陽性像を示したが著明な集積像ではなかつた。これに対し骨のう胞，線維性異形成のようなのう胞性腫瘍は陽性像を示さなかつた。炎症病巣の多くは陽性像を示したが著明なものではなかつた。以上の結果から本法は病巣の質的診断に有用であり又，^{201}Tl の集積の程度は病巣への血流と細胞充実性をあらわすものと考えられ ^{99m}Tc ＭＤＰ骨シンチグラフイと異なつた情報を与えてくれることが判明した。

Presented by Medical*Online